

『人文 × 社会』創刊に寄せて

『人文 × 社会』は、東京大学人文社会系研究科・文学部の院生・学部生を中心とする研究者が自由に原稿を投稿できる新たな電子学術雑誌プロジェクトです。このプロジェクトでは、次の4つの目標を掲げています。

1. 東大人文社会系研究科・文学部のつながりを作ろう

東京大学人文社会系研究科・文学部には、さまざまな分野の研究室が存在します。しかし、研究室間の交流は必ずしも盛んではありません。ましてや人文社会系研究科・文学部全体の院生・学部生が協働して何か一つのことに取り組むということは、従来ではあまりなかったことです。『人文 × 社会』では、異なる研究室に所属する院生・学部生が、共同で雑誌を刊行することを通して、研究室の枠組みを超えて問題意識を共有することを目指します。

2. 積極的な多分野交流を促進しよう

近年問題視される学問の細分化は、一概に悪いものとは言えません。細分化された分野でそれぞれのディシプリンが確立されてきたからこそ、高度な研究が発展してきた面もあります。しかしそれと同時に、積極的な多分野交流を通して、既存の枠組みを超えて、新たな領域を創出していく努力も必要です。この点は、東京大学人文社会系研究科・文学部においても十分ではありません。『人文 × 社会』は、人文・社会科学の研究者にそうした多分野交流の場を提供することを目指します。

3. 独創的な研究を常に自由に発表できる場を作ろう

人文・社会科学では、従来の枠組みにとらわれない研究は、査読側が対応できなかつたり、そもそも投稿できる論文誌が存在しなかつたりすることが

あります。そうした状況は、研究者が独創的な研究に取り組む意欲を削ぐことにつながりかねません。『人文×社会』は、研究者に常に自由に投稿できる場を提供することで、新たな研究領域への挑戦を支援することを目指します。

4. 研究者が自ら将来を切り拓こう

人文・社会科学の研究者が大学常勤職に就くことは、年々難しくなっています。大学の財政状況が厳しくなる中、こうした就職状況が劇的に改善されることはないでしょう。これだけを考えるならば、悲観的な未来しかありません。しかし研究者のキャリアのあり方は、もっと多様であってよいはずです。例えば、人文・社会科学においても、オンラインサロンを主宰したり、民間の研究機関を創設したりすることは可能です。このような新たなキャリアの可能性を創出してゆくためには、より社会に開かれた視点が必要とされます。『人文×社会』は、大学内外を問わずさまざまなアイデアをもった研究者が交流する場を提供することで、多様なキャリアを支援することを目指します。

2021年3月15日

『人文×社会』編集委員会